

第3章 計画の概要

1 取組の方向性

これまでの取組の実施状況や水源林を取り巻く環境の変化を踏まえ、前計画の取組の柱である「多摩川上流域における民有林の保全・管理」と「多様な主体と連携した森づくり」とともに、新たに「都民の理解を促進する取組」を取組の柱に加え、推進することで、多摩川上流域全域を見据えた森林の育成・管理に取り組んでいきます。

(1) 都民の理解を促進する取組

- 水源地保全の取組を推進するためには、より多くの都民の理解が不可欠であるため、「都民の理解を促進する取組」を強化します。
- 水源地の魅力の発信を強化するとともに、「奥多摩 水と緑のふれあい館」（以下「ふれあい館」という。）や水源地ふれあいのみち（以下「ふれあいのみち」という。）などのふれあい施設の魅力の向上を図り、より水源林に親しんでいただくことで、水源地保全の重要性について理解促進に取り組みます。これにより、水源地保全の機運を高め、「多様な主体と連携した森づくり」への参加につなげます。

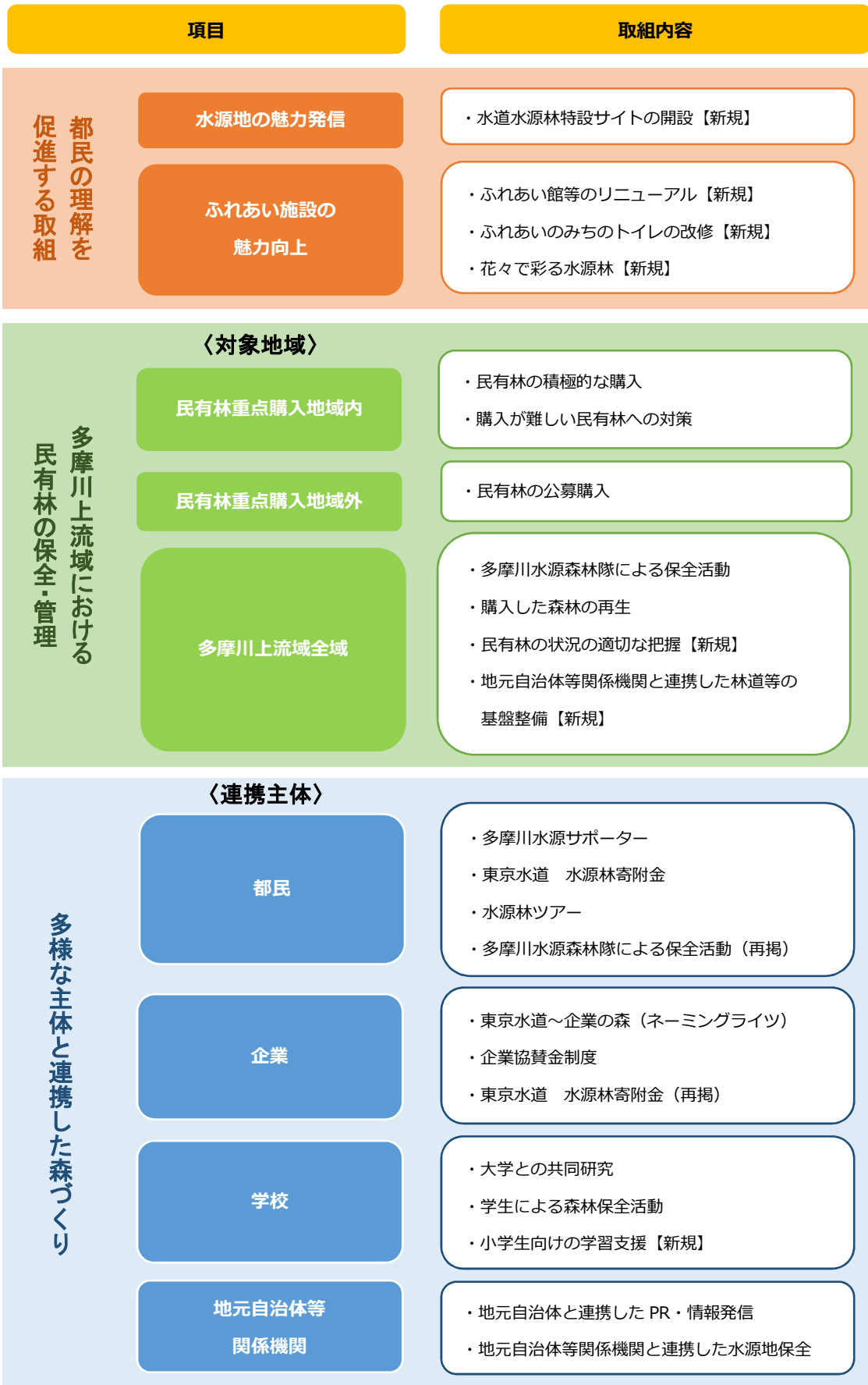
(2) 多摩川上流域における民有林の保全・管理

- 重点購入地域において積極的な購入を進め、水道局による管理を行い、水源林として良好な森林へ再生します。
- 重点購入地域において購入が困難な森林については、個々の状況を踏まえ、適切な保全・管理に向けた対応を行います。また、民有林の公募購入、森林隊による保全活動など、これまでの取組を引き続き進めます。
- 気候変動の影響により、将来的に森林の荒廃や小河内貯水池への土砂流入が懸念されることから、小河内貯水池流入域の民有林について荒廃の進行状況などを適切に把握していきます。
- 地元自治体等関係機関と連携した林道等の基盤整備や小河内貯水池への土砂流出防止対策の推進のため、調整を進めます。

(3) 多様な主体と連携した森づくり

- 都民、企業、学校及び地元自治体等関係機関と連携した様々な取組を進めます。取組に当たっては、これまでの実施状況を踏まえ、より多くの方に参加していただける内容とします。
- デジタル技術を活用し、効果的な広報、参加しやすい仕組みづくり、より分かりやすいコンテンツの提供などを進めていきます。

2 取組の体系



3 取組の推進に当たっての視点

(1) ICTの活用・デジタル化の推進

多摩川上流域の広大な森林を管理するために必要な情報を効率的に収集するとともに、都民の理解を促進する取組や、多様な主体と連携した取組の実施に当たっても、分かりやすさ、利便性の向上などを目的に、様々な場面でICTの活用やデジタル化を推進します。

(2) SDGsの実現への貢献

森林を保全し、森林の持つ様々な機能を維持・向上させるための取組や、多様な主体と連携した取組により、SDGsの17の目標のうち、7つの目標の実現に寄与します。

関連する目標※		計画での取組とその効果
	安全な水とトイレを世界中に すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理の確保	○水源林の適正管理による水源林の機能の発揮、小河内貯水池への土砂流出防止、二酸化炭素貯蔵機能の発揮、生物多様性の維持 ○荒廃した民有林への関与による森林の機能の回復
	住み続けられるまちづくりを 都市と人間の居住地を包括的、安全、強靱かつ持続可能に	
	気候変動に具体的な対策を 気候変動とその影響を軽減するための緊急対策	
	陸の豊かさを守ろう 森林の持続可能な管理、生物多様性損失の阻止	
	パートナーシップで目標を達成しよう 効果的なパートナーシップの推進	○多様な主体と連携した森づくりによる、水源地保全の重要性についての認知度の向上、森林の機能の向上
	質の高い教育をみんなに 公平で質の高い教育の提供と生涯学習の機会促進	○都民の理解を促進する取組による、水源地保全の重要性についての認知度の向上
	すべての人に健康と福祉を あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保	○森林隊の活動や水源林ツアー、ふれあいのみち散策などを通じた健康維持

※この計画の取組との対応が分かるよう一部抜粋又は表現を変えて記載しています。